

ネクストステージチャレンジ休暇、 アニバーサリー休暇、配偶者出産休暇



経営企画本部 人財戦略部
労務グループ課長

高橋 典子 さん

企業プロフィール

- 事業内容: インターネットデータセンター事業
- 従業員数: 144名(2014年7月31日現在)
- 年次有給休暇の取得率: 39%
- 年間休日数: 122日
- URL: <http://www.bit-isle.co.jp/>

さらなる飛躍を目指す 「ネクストステージチャレンジ休暇」

実践!

こうすればできる!
こうすればのびる!

- ① 全社員の前で表彰することで制度を周知
- ② 休暇取得対象者を社内で把握
- ③ 社員の家族も大切にす

さらなる飛躍を目指す 「ネクストステージチャレンジ休暇」

当社は、インターネットビジネスの進展に伴って増加する、企業のインターネット利用コスト削減を図るデータセンターのビジネスモデルに注目し、2000年にデータセンター事業者として創業しました。現在では、データセンターをコアに、情報システムの運用からネットワーク接続、セキュリティ、ストレージ、さらに、アプリケーション開発やシステムインテグレーションまで、多彩なサービスを提供しています。

「ネクストステージチャレンジ休暇」は、2006年に大証ヘラクレス（現 JASDAQ）への上場に伴い、人事制度を整える過程で創設したものです。導入の目的は中長期勤務者に対する慰労と、今後、当社でのさらなる飛躍という期待をこめて、自己啓発やリフレッシュに当てていただくというものです。

この制度では、勤続3年で3日間、5年で5日間、

10年で10日間の連続休暇を有給で付与。休暇取得対象者となった日から1年以内に取りする必要があります。休暇とともに、勤続3年で3万円、5年で10万円、10年で30万円の手当も支給しています。休暇取得対象者になると、本人だけではなくその上司にも通知をした上で本社朝礼にて表彰をします。このように周知することで、休暇を取りやすい環境を作っています。

制度を導入した当時は、創業からの年数が浅く、やっと勤続3年に該当する社員が開始したばかりでした。しかし、現在では、勤続10年の表彰を受けた社員もおり、勤続10年を超えた社員を対象とする制度へと拡充を検討しているところです。

どんな記念日でもOK 「アニバーサリー休暇」

2009年には、年1日の「アニバーサリー休暇」(有給)も創設しました。社員自身や家族の誕生日、結婚記念日、子どもの入学、卒園など、理由は何でもいいのですが、“記念日であること”が取得条件です。年度ごとに申請をしますので、その年の社員自身のライフイベントに合わせて取得することができます。創業以来、仕事優先で働いてきた社員も多く、自分や家族のための休暇を1日でも取って欲しいという思いから導入しました。



■ 社内のコミュニケーションの場「グループラウンジ」

子どもの誕生を祝う「配偶者出産休暇」

創業当時から設けられているのが「配偶者出産休暇」です。女性社員には産休がありますので男性社員を対象とし、子どもが生まれた日から10日間以内に3日間の有給の休暇を取得できるというものです。夫婦共働きが増える中、男性も育児に参加したいというニーズを考慮し、設置しました。ほとんどの男性社員が、子どもが生まれると取得しています。

また、当社では、配偶者への日ごろの感謝の気持ちを込めて会社からプレゼントを贈る「配偶者バースデープレゼント」という制度もあります。男性も女性も家族の協力があって、仕事を続けられると考えるためです。

制度活用事例

「ネクストステージチャレンジ休暇」で 1ヵ月間留学し、英語の猛特訓

2013年、勤続10年の「ネクストステージチャレンジ休暇」の対象となり、10日間の休暇と30万円の手当をいただきました。そこで、GWと年次有給休暇を組み合わせて、1ヵ月間、フィリピンに英語留学しました。マニラからバスで5～6時間、のどかな農村部にある語学学校なのですが、英語の特訓を受けるにはいいと評判の学校です。宿泊も食事も学校の敷地内で、レッスンは1日8時間と、文字通り、缶詰めになって勉強してきました。

普段、それほど英語を話す機会はないのですが、海外のメーカーと取引があり、英語圏の方が当社にお越しになった時は、英語でのコミュニケーションが必要になります。IT系の仕事なので、会社が立ち上がったばかりという取引先も多く、シリコンバレーからいらっしゃった方から、英語で事業説明を受けることもあります。そのため、以前から、仕事の合間に、週2回、英語のプライベートレッスンを受けていました。

ハワイでのんびりしながら英語のレッスンを受けるという選択肢もありましたが、本気で“使える英語”を身につけるには、スパルタ式の学校で学ぶしかないと思い、この学校を選びました。1日8時間のレッスンのうち、6時間はプライベートレッスンで、その後、1時間はグループディスカッション、残り1時間はTOEICの特訓コースというカリキュラムでした。先生はTOEICで満

点を取っている優秀な方ばかり。グループディスカッションでは、「人種差別についてどう思うか」などのテーマについて議論をしました。英語で自分の考えを伝え、相手の意見を聞いてさらに意見を言うという経験ができたことがとても良かったと思います。

滞在中は、アルコール禁止。近くにコンビニエンスストアも日本料理店もなく、正直、辛かったのですが、おかげでだいぶ英語が身につきました。TOEICの点数も180点アップしました。

これからもチャレンジを積み重ねたい

今では、仕事で英語を使う場面があってもストレスを感じなくなり、目の前の霧がパーッと晴れたような気持ちです。

もし、今後もまたネクストステージチャレンジ休暇をいただけるのであれば、次もまた英語留学をしたいと思っています。語学は勉強すればするほど積み上がっていくものだからです。目標はTOEICの点数をさらにアップすることです。



クラウド・ITソリューション本部
技術部長

西澤 賢史 さん